

所 属	農学生命科学部	氏 名	加藤 幸
課題名	特種水田における地域資源（セリ・ワサビなど）の生育・栽培環境の分析とブランド化の可能性について		
<p>1. 概 要</p> <p>セリやワサビなどの地域資源を生産する田んぼは、米を生産する水田と区別し「特殊水田」と呼ばれます。青森県には、特殊水田で栽培される貴重な地域資源を数多く有しています。これらの資源は長い歴史や伝統を持っている反面、慣行的な営農が行われて場合が多く、栽培方法や生産基盤について必ずしも十分な調査が行われていない実情があります。</p> <p>この研究ではこれらの特殊水田で栽培される地域資源のうち北限の栽培セリである「一町田セリ」と岩木山麓で栽培される「ワサビ」に着目し、栽培環境を調査するとともに、他の優良産地との連携から、地域に適した特殊水田の管理方法の構築と、ブランド化を進める可能性について検証します。</p> <p>(1) 一町田セリの栽培環境とその生育・収量特色</p> <p>2017年より弘前市一町田地区の「岩木山の見えるぶどう畑」、「山田農園」と共同で、一町田セリの生育環境、セリ田の管理方法に関する研究を進めています。調査では、セリ田に設置したセンサネットワークを活用すると同時に、生育収量調査を進めています。2018年度は、セリ田の水温とセリの生育の関係を調査し、水温に加えセリ田の水管理（水深）がセリの生育特性に影響を及ぼすことを明らかにしました。さらに、本研究は、宮城県名取市で仙台セリを生産する「三浦農園」との共同研究も進めており、弘前と名取の生産者と研究者の連携、両産地間の生産者連携をもとに、一町田セリの栽培技術の向上を目指しております。</p> <p>2019年度も同様の調査を継続し、現象の再現性を確認すると同時に、露地栽培とハウス栽培のセリの生育比較、仙台セリの栽培方法を導入した一町田セリの生育状況の検証などを進める予定にしております。これら、一連の過程を通じて、伝統的な一町田セリの栽培方法やセリ田の管理技術を発展的に継承し、品質改善や歩留まりの向上に寄与していければと考えております。</p> <p>(2) 岩木山麓ワサビの栽培環境</p> <p>ワサビの産地としては静岡や長野などが有名ですが、青森でも岩木山麓でワサビを生産する農家があります。本研究では、岩木山麓の生産者の協力を得ながらワサビの栽培環境およびワサビ田の構造について調査を進めています。</p> <p>ワサビの生育は、気温のほか水温・水質との関連が深いことから、岩木山麓のほか、対照事例として、秋田県藤里町、静岡県伊豆市、長野県安曇野市のワサビ田で用水をサンプリングし、水源の水質調査（pH、カルシウム、カリウムなど）を進めるほか、白神山地の水源を活用したワサビ栽培の可能性を探ります。また、ワサビは一般に、重金属を集積し易い傾向にあるといわれていることから、今後、安全安心な生産環境整備のため、産地ごとの重金属成分の集積傾向などを調査する予定にしております。</p>			
<p>2. 画像の説明</p> <p>(1) 収穫期を迎えた一町田地区のセリ田（2018年12月）</p> <p>(2) コンテナを活用した岩木山麓におけるワサビ栽培（2018年11月）</p>			



(1) 収穫期を迎えた一町田地区のセリ田（2018年12月）



(2) コンテナを活用した岩木山麓におけるワサビ栽培（2018年11月）